



平成30年度 (6月~9月)
まじわーるde〇〇のイベント開催報告です。

...deサンキャッチャー

6月25日(月) 13:30~15:00
講師: yoshika 氏
*10名参加されました。
講師からサンキャッチャーを作るにあたってのポイントを教わった後は、皆思い思いにオリジナルなサンキャッチャーを制作しました。前回参加された方は「今日はこの色の組み合わせでピアスを作るんだ。」と嬉しそうに取り組んだり、新しく参加された方もサンキャッチャーの輝きに胸を弾ませて色を組み合わせ楽しんでました。

...de(ド) トーク

7月5日(木) 13:30~15:00
*会場を宮前市民館の4階会議室で行い、9名参加されました。
区内の福祉施設で作っているクッキーを食べ比べ、食感や味・形等について感想を述べ合い、趣味や特技などについてもそれぞれに思いを紹介していました。
雰囲気や和らいだ頃に2年前に起きた津久井やまゆり園事件にも触れ、個々の感想を聞くことができました。時間は流れてもあの出来事の記憶は彼らにとっても風化せずにいることを強く感じました。

...deハーバリウム

8月25日(土) 13:30~15:00
講師: 小浦 千恵 氏
*15名参加されました。
カラフルなドライフラワーなどをそれぞれ好みのアレンジで小瓶に詰め込んで、そこにオイルを流し込んで作品を楽しむハーバリウム...
障がいのある方もない方も、高齢の方も親子の方も一緒になって小瓶に思い思いの花々等を咲かせて楽しんでいました。

...deまなぶ: 身体障がいについて

9月20日(木) 14:30~15:30
講師: 金 聡美氏 (れいんぼう川崎)
*5名参加されました。
具体的な障がいの話や、障がいの体験を通して、身体障がいについて学びました。講師の「障がいには個人差があり、その方にあったコミュニケーションが必要です。又、その方の生活環境や生活背景を深く知ることが、より良い支援につながります。」というお話が印象的でした。相手の立場になって考えることの重要性を再認識しました。
普段何気なく生活している場所でも、障がいがある方にとっては、危険な場所が沢山あります。皆で声を出し合って環境を改善していくことも大切だと学びました。

...de(ド) トーク

9月1日(土) 13:00~15:00
*4名参加されました。
少人数の参加ということもあり、普段はなかなか話すことのできない、深い話をすることができました。お茶をしながら、夏まつりの感想や日常生活を送るに際して困ること、自身の障がいについて話し合いました。あっという間に濃密な本音のトークになりました。当事者の方から生の声を聴くことができ、学びが多く、きまっしーの今後の活動のヒントを得ることができました。

しょうがい者サポーター
養成講座

9月6日(木) 13:30~15:30
*5名参加されました。
今回の養成講座では、内容を改編し、わかりやすさを追求しました。2回目の参加の方もおり、皆様講義に集中していました。関心度の高さを実感しています。ヘルプマークについての質疑も多く、しょうがい者サポーター養成講座と同時にヘルプマークの周知も重要であることを再認識しました。新たなサポーターが誕生し、優しさの輪がまた少し広がりました。

イベント Calender 10月~12月
(予定)

秋もイベントをたくさん用意しました。
障がいのある人もない人も住み慣れた街で安心して暮らせるように...
ご興味のある方は、ぜひこの機会にご参加ください。

- 10月13日(土) まじわーるde市民館トーク
- 10月25日(木) まじわーるdeワークショップ(クレイデコ)
- 11月 7日(水) しょうがい者サポーター養成講座
- 11月13日(火) まじわーるde(ド)トーク(宮前市民館)
- 11月21日(水) まじわーるdeまなぶ(精神障がい): 予定
- 12月 8日(土) まじわーるde(ド)トーク
- 12月 日() まじわーるdeワークショップ(リース)
- ※12月のワークショップは後日ご案内いたします。

【編集後記】

今号の季刊紙はいかがでしたでしょうか。
【障がい者サポーター】で検索すると、地方では自治体が率先してサポーターを養成している記事をよく見かけます。小さな活動かもしれませんが発信していくことが大事だと感じました。
また区内にも様々な障がいに関わる活動団体があります。これからも様々な形で情報発信をしていけるよう努めてまいります。
障がいのある方もない方も、共に暮らせる地域社会を目指して...

季刊 きまっしー
秋号

Vol. 9

発行日: 平成30年10月1日
発行元: 社会福祉法人みのり会
生活支援センターきまっしー
連絡先: 宮前区馬絹6丁目10番33号
まじわーる宮前2階
TEL 044(855)1011
FAX 044(855)1022
kimassi@tobe-kobato.or.jp

<https://www.facebook.com/kimassi.kimassi/>



【収穫の季節】

藤田 将行 さん
(地域活動支援センター 宮前フレンズ)

3年半前から絵と向き合うようになり、色々と描いてみたがあまりの下手さにむきになり、描いていくうちに上手くないが慣れてきました。今は毎朝決まった時間に絵と向き合っています。サインペンから始まり、今はアクリル絵の具で描くという変化も出てきました。
今後の目標は今描いている四つ切(54×38)よりもっと大きな作品を作り、将来は表現の仕事に就くのが夢です。



第3回 まじわーる de 夏まつり
(報告とお礼...)



【のぼり旗】

平成30年7月21日(土) 10:30から始まった「第3回まじわーるde夏まつり」、朝から快晴のもと気温も30℃を超えるような暑さでしたが、来場者の出足も良く出店先や各イベントも大賑わいのうちに終わることができました。
新しく始めたミニ演奏会は、3団体に出演協力をしてもらいました。なじみの曲が流れると曲に合わせて手話ダンスを披露してくれた来場者もいて和やかな演奏会を催すことができました。又、昨年行った「すいか割り」は今ではすっかり名物コーナーとなり、子どもたちの歓声は夏まつりにとっては欠かせない存在となりました。
嬉しい誤算もありました。80個購入したシフォンケーキが販売してわずか1時間足らずで完売。かき氷もお昼前には予定数が終了し、その他の出店も終了の15:00前にはほぼ完売していました(*^_^*)。
福祉施設の自主製品も販売は好調な売上げを伸ばし、水引きやハーバリウムのワークショップも親子連れに大人気でした。
今回、まじわーるde夏まつりを手伝っていただきましたサポーターや地域の関係者の皆さま、また裏方ながらポスティングやのぼり旗を作成していただいた「セルフ宮前こぼと」「あーる工房」の関係者の皆さまには心よりお礼申しあげます。ありがとうございました。
来年も皆さまからいただいたアンケートやご意見を参考に、障がいのある方もない方もまじわって一緒に楽しめる「まじわーるde夏まつり」を育てていくことに努めて参ります。
来年も皆さまのご協力のほどよろしくお願いいたします。
生活支援センター きまっしー スタッフ一同



【盆踊り】



【自主製品販売】



【ミニ演奏会】



【野菜・多肉植物販売】

障がいのある人もない人も... ちょっとした気遣いで
サポートが必要な人とサポートをする人を結びつけます



※他にもさまざまな障がい者マークがありますが、ここでは障がいのある方が主に身に着けているマークを取り上げました。

～ しょうがい者サポーターはこのような時にサポートします～

日常生活

- ▶ 交通機関の遅延などで困ってる時
- ▶ 事故や病気・ケガなどで困ってる時など

しょうがい者サポーターへのご理解とご協力をお願いします。



平成30年9月16日(日)10:00~17:00「採れたての不思議の国のアート。召し上がれ!」と題して、社会福祉法人みのり会セルフ宮前こぼと(宮前平駅近く)が主催するアートフェスタが開催されました。

玄関前には、大きなオブジェがお出迎え。玄関には大きな絵画や絵葉書が飾られていて「この先には何があるんだろう。」といったワクワク感を覚えました。受付を済ませると会場までの通りには、壁づたいにコピーした作品群が細かく貼られファンタジーな世界観を感じました。会場に入ると、壁には一面に彼らの作品が大小さまざまに、またカラフルに飾られ、また中央には段ボールや紙コップ、色とりどりなシールなどが置かれ、来場者が作品を鑑賞だけでなく、自ら創作して楽しめるコーナーも設けていて飽きさせない工夫が感じられました。

作品は、販売も兼ねており気に入った作品があればその場で購入もでき(非売品もあります。)訪れた方の中には「自宅に飾りたい。」と購入された方もたくさんおりました。

今回140名近くが来場されたとのことで、アートフェスタも年々知名度が上がってきているように感じました。次回開催も楽しみです。

区内で活動する福祉団体の紹介コーナー

あそぼう会

今回取材をした団体は、宮前区を中心に障がい児・者と大学生との交流を図って22年になる『あそぼう会』の紹介です。

発足...

1996年「エンゼルフィッシュの会」(障がい児・者を対象に市民プラザで行うスイミングスクール)に通うメンバーや宮前区内の障がい児を抱える友人たちががんとなく集まり、「あそぼう会」を創設しました。当時は障がい児を抱える親にとって放課後をどう過ごすかが課題となっており、宮前区中心の放課後活動のグループを作ろうという事から発足に至りました。

活動...

毎月1回、土曜日もしくは日曜日に活動しています。メンバーは、脳性マヒ・ダウン症・自閉症・発達障害など11名と國學院大学のボランティアサークル『奉仕会』のメンバーで活動を行っています。活動内容もさまざま、遊びを中心として近くの公園や大学キャンパスでの交流会などを行いました。郊外では千葉のマザー牧場にも出かけました。夏には泊りがけで八ヶ岳などにも出かけメンバー同士の交流を楽しんでいます。

課題...

発足当時、小中学生だったメンバーも今では平均28歳を数えるまでに成長しました。(当然、親も同じ年数を重ねています...)。学生ボランティアも以前は15名程度で潤沢に参加していましたが、最近では参加数も減り以前のような活動ができなくなってきているのが大きな課題です。

『あそぼう会』と歩んできて...そして、これからも...

学生ボランティアとの交流活動は、今ではかけがえのない財産となりました。今でもお付き合いのある卒業生は、彼らと一緒に遊び楽しんだことが卒業後大きな経験や財産になったと話していました。子ども達の成長になくはならない「あそぼう会」です。彼らの豊かな笑顔がこのように長期に渡って活動を支えてるように思います。

彼らと一緒に遊んでくれるボランティアさんを募集しています。よろしくお願いします。

問合せ先：044-865-6465(「あそぼう会」代表：太田公子)

宮前区地域包括ケアシステム推進シンポジウム

平成30年9月15日(土)、宮前区役所にて「宮前区地域包括ケアシステム推進シンポジウム」が開かれました。

宮前区では、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう共につなぎ、支え合い、安心して暮らせる地域づくりのための活動が活発に行われています。

講演では東京大学高齢社会総合研究機構特任教授の後藤純氏から「みんなが楽しくつながる地域づくり」をテーマに教授が関わった自治体の取組事例などが挙げられました。その後各地区で活動する5団体(赤ちゃん広場(区内7ヶ所)・どんぐりサロン(東有馬)・やすらぎカフェ(初山団地)・café桃花(小台・有馬・大塚)・みんなのカフェ(南菅生))からの取組事例が紹介されました。残念ながら障がいを取り上げた紹介はありませんでしたが、障がいのある子どもを受け入れようとする団体の話もあり、障がい児・者を取り巻く活動が地域包括ケアシステムに受け入れられつつあるといった印象を受けました。今回のシンポジウムでは、包括ケアシステムを推進していくことが地域の活性化につながるということを確認しました。きまっしーも障がいのある方が住み慣れたまちで安心して暮らせるようさまざまな取組を行っています。宮前区の地域包括ケアシステムにきまっしーも一役を担えるよう努めなければと感じました。